



TITLE:

静脩 Vol. 6 No. 6 (1970.3) [全文]

AUTHOR(S):

CITATION:

静脩 Vol. 6 No. 6 (1970.3) [全文]. 静脩 1970, 6(6)

ISSUE DATE:

1970-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/65935>

RIGHT:



自然科学系の図書館

楠 幸 男

京都大学において、たまたま自然科学系の理学部と工学部には部局図書館がなく、各教室ごとに図書室があって図書の管理運用に当たっている。これは各学部における研究の性格や研究施設の状況における差違から生じたものであると思われる。そして専門の学術図書雑誌が両学部の各教室で保管されていることは、その利用度の点や研究施設の分散している状態から考えて妥当なものと思う。しかし学生用教育図書が同様に分散しているのは必ずしも適当とは思われない。また、近年における自然科学関係の図書文献の増加は指数函数的であるから、そう遠くない将来におけるその適切な保管運用ならびに膨大な文献探索の能率的な情報処理等については一考する必要があるのではなかろうか。

このようなことから、ここで北部キャンパスに附属図書館の分館として、自然科学系の図書館をつくることを提案し、それに関連した私見を二三記すことにしたい。

一般に、図書館の利用度は距離に逆比例しその必要度は人口に比例するから、早晚北部構内に一つ図書館ができるのも自然であるように思う。では、つくるとすればどのような内容性格をもった図書館を考えるべきであろうか。学生用教育図書の充実とか快適な閲覧室をつくるといったことは直ちに考えられるが、一方それとともに大学の図書館が公共の図書館や資料館と異なるべき点はそれが研究図書館としての機能をもつことである。そしてこの点についてはいろいろの考え方や問題点があるだろう。しかし研究施設の状況ならびに自然科学の進展にともなって将来ますます激増する図書文献の洪水を考えると、その図書館が各図書室を結ぶ有能な情報センターの役割をもつということは極めて重要なことと思う。そのためには文献情報や整理事務等に電子計算機の利用を考える必要があろうし、また将来はその活躍が十分期待される。

そのほか、たとえば保管の問題に関連して、各教室から利用度は少なくなったが貴重な図書資料類を移管する場合、その利用度はゼロではないから倉庫にしまい込む式ではなく、必要ときにはそこへゆけばいつでも取出して研究調査できるようにありたい。

ついでながら、私の教室にある和算書は貴重なものであるが十分な保存ができず、シミにかまれ湿気に痛められているので完全看護の要を感じている。

いずれにしろ、将来このような近代図書館を建設するに当たっては大学人の衆智を集め、既成概念にとらわれず、外国の図書館の見習うべき点も考慮しながら独自の考えで立派なものをつくるべきであろう。いうまでもなくそのような図書館ができることはその重要な機能とともに、落付いて勉学する環境をつくる上にも貢献するものと思う。2月15日(理学部教授)

図書館職員による「大学図書館改革問題懇談会」スタート

京都大学の図書館問題を検討するために、昨年末教官をメンバーとした「商議会専門委員会」が発足したが、これにつづいて2月13日（金）に、図書館職員による「大学図書館改革問題懇談会」がスタートした。3月20日（金）まで4回の会議が重ねられているが、だいたいつぎのようなことがきまった。

〔目的〕 新しい大学の図書館がいかにあるべきかを考え、改革案を作成し、その実現に努力する。

〔構成員〕 1. 京都大学の図書館職員および関心のあるひと。

2. 連絡員一会議の内容を部局に伝達し、また館員の意見をなるべくまとめ、会に反映させる。

人数 17名（各学部、教養、人研、化研、経研、数研、原子炉より、それぞれ1名、図書館より2名）

3. 世話人一会の進行・運営にあたる。

人数 7名
岸本年之（法） 高橋和子（教養） 竹内隆恭（農）
坂東 慧（数研） 広庭基介（文） 古原雅夫（医） 小国健一（図、仮）

〔会議の開催日〕 第1・3金曜日（月2回）

ロシア語学術雑誌（化学系）英訳版の共同購入計画すすむ

英・仏・独語逐号翻訳誌 Cover to cover translations として知られるロシア語雑誌翻訳版は、昨年8月当時のリストですでに200誌近くに達している。本館にも備付け希望があるが、購入のあい路は、その種類の多いこと、単価が高く（1種平均年間5～6万円見当）、かつ毎年の継続支出となることなど、おもに予算的裏付けの乏しいことが偽りない理由でもあった。

そこで、宍戸館長の発案により、①購入の手掛りとして範囲を化学系に限定する。②化学系各教室（および図書館）の共同負担とする（各講座・教室の年間負担額は1万円）、③希望の翻訳版は本館に一括備え付けるとの原則で、学内の化学系教室・講座代表約20名による化学系図書懇談会を昨年末発足させ、最近（2月17日）開かれた第3回会合で18種の化学系英訳版の購入希望をとりまとめた。

今後、購入・契約済みのものとの調整、支払など事務的には複雑な問題を蔵しているが、一つの新しい試みとして注目されよう。

京都大学学術雑誌総合目録・補遺1970年版刊行さる

これは自然科学と人文科学の両篇に分かれ、それぞれ和文と欧文とを含んでいる。既刊の各総合目録諸篇のサプリメントとなるもので、その後の新規備付雑誌を網羅している。今後、この補遺版は逐年出される予定である。

一 会 議

図書館商議会専門委員会 第2回：昭和45年1月21日（水）、第3回：2月18日（水）

〔第2回〕 議題：部局図書委員会の諸問題について

前回議事報告の後、図書館商議会と部局図書委員会との性格的・機構的相似点について、商議会・委員会は評議会・教授会の Sub-Committee または総長・部局長の諮問機関であるかどうか、また全学的な図書館体系のビジョンを確立するとともに図書館（室）の機能を整

備充実させることが目下の急務でないかなどが討議された。

〔第3回〕議題：全学的な図書館組織のあり方について

前回議事報告の後、図書館人事・予算、図書の管理・運営の諸問題について、分館問題における建面積と予算の関係、全学的ビジョンの明確化、本館の3階増築、文献複写サービスの迅速化などが討議された。なお館長ならびに整理課長から図書専門職員による「大学図書館改革問題懇談会」の発足が報告・説明された。

近畿地区国公立大学図書館協議会の図書館業務機械化委員会

この委員会は京大が主査館となって昭和43年より業務の機械化について検討を進めてきたが、44年度は文部省が予算化を準備中であった高性能 PCS（パンチカード・システム—IBM モデル20）を中心に検討を行なった。

これは主に発注・受入と貸出返却および雑誌管理の業務にいかに関機を導入するか、また仕事の流れは現在に比較してどのように改善され、効率を上げ得るか等をフローチャート化して具体的に検討しており、近く報告がまとめられる予定である。

今のところこの PCS 導入にはなお問題点（前提となる業務の集中や標準化、システム自体の問題等）もあり、また予算措置を伴うこともあって早急には実現できないとしても、業務量の増大に対処してサービスの迅速化を図る等大学図書館の機能を高めるために機械化を推進する必要がある、本館としてもとりあえず部分的適用についての具体的な可能性を検討している。

一言・ふたこと

今の私にとって、図書室は、身分や権威をひけらかしはしないけれど、嘘や曖昧さに対しては極めて厳格な教師のいる所であり、時には、暫らく遠ざかっていると無性に逢いたくなる片想いの恋人に似た場所でもある。そして、ここ1年半ばかり、所属する研究室の図書の管理を任されている立場から見ると、それが研究と教育の中核施設の一つでありながら、今の政府の高等教育と科学技術に対する施策の貧困と歪みの縮図であるように思える。理学部化学科の図書室の場合、50周年記念事業で図書の充実を計られたとかで、雑誌のバックナンバーは京大の他教室と比べてもずいぶんよく揃っている。けれどもその少なくない図書を管理して下さっている職員は僅かに2人であり、しかもその1人は定員外職員と聞いているし、他の1人も図書室の専任ではない。絶対的に少ない職員の影響は、われわれ利用者の共同財産と

理学部化学教室
 図書室に想う

としての自覚の欠如にも原因があるのだろうが、100冊に近い単行本の行方不明という結果となり、大きな不便を蒙っているし、図書室の広さは、書庫とコピー室を合わせて実験室7スパン分であって、完全開架式の書棚と同居の閲覧机では深い思考は望むべくもない。マスコミでも宣伝されている情報化時代を迎え、飛躍的に増大しつつある情報量に押し潰されないためにも、その充実とともに大学の図書の運営は、全学的あるいは全国的な文献情報のオンライン化を含めて、抜本的な改革を期待したいが、これも早急の実現が困難となれば、せめて情報化時代の趨勢に流れ、深い思索の習慣と時間を失ない勝ちの院生、学生のために、図書室がまさに静脩の場を与えてくれることを願いたい。

（博士課程2回生 山岡 隆）

改革をめざす図書館職員の一つの歩み

—『準備会の準備会』から『大学図書館改革問題懇談会』へ—

全学で封鎖があいついでいた昨年8月末に、各部局より有志の図書館職員が附属図書館に集って、『大学図書館改革を検討する準備会をつくるための準備会』といった形で話し合いがはじまった。

このそもそもの動機は、大学が苦悩するときひとり図書館のみが無縁でありうるはずがない。大学の改革に大学図書館はいかにかかわっているのかを明らかにし、また今日までのありかたを反省して、問題点を忌憚なく出してみようということであった。

集まり自体非公式のものであり、出席者は部局図書室を代表したり、責任をもたされたものではなかったので、ごく自由な雰囲気の中で、各々が一館員として考えていることをぶっつけあった。そしてこの会合は、1～2週間に1回の割合で、本年はじめまであしかけ6ヵ月ほどつづけられたのであった。

この問話しあわれた内容は、附属図書館や全学の図書室は、これまで利用者にたいして、その役割を十分にはたしてきただろうか。このままでよいのだろうかということから発し、附属図書館と部局図書室のむすびつきがいかにあるべきか、附属図書館商議会（図書館行政についての総長の諮問機関）や部局図書委員会はいかにあるべきか、さらによりサービスの円滑化をすすめるためには、図書館業務はいかに改善されるべきであるか…などであった。この図書館職員の話しあいを通じて、とくに強く感じとられたことは、職員が今までの研究中心・教官偏重のサービスを改めて、もっと学生が利用しやすい図書館に体質改善せなければならぬ、整理業務よりも閲覧・貸出業務に力点をうつすべきであるという意識をもち、すべての利用者に平等に読む権利・知る自由を提供する方法を探しもとめているということであった。

こうして現場職員（一部のものではあったが）の眼から見たいろいろな問題点が出されてきたのであったが、これを簡単にまとめると下記のようなになる。

1. 図書館長のあり方
2. 商議会のあり方
3. 大学における附属図書館のあり方
4. 機能別による全学図書館組織の再編成
5. 図書館予算のあり方
6. 部局図書室のあり方
7. 学生参加のあり方
8. 職員参加のあり方

図書館問題を検討するために、既に商議会専門委員会が昨年末にスタートしているが、いままた『準備会のための準備会』は発展的解消して、全図書館職員にまで輪を広げた『大学図書館改革問題懇談会』として新生をとげようとしている。

『懇談会』のこれからの道は、けっして安易なものではなく峻峻なものであると思われるが、ひろく大学全体を見わたす視野に立って、足を地につけた改革をめざして進んで行くことを期待する。また単に図書館職員のみではなく、全学のかたがこれからの図書館の行きかたに深く関心をもたれ、ともに真剣に考えていただくようお願いがいくする。

附属図書館収集の「大学問題関係図書」目録（そのⅡ） 一資料紹介一

—1969年7月より1970年2月まで—

排列は書名の50音順。開架図書室に所在。

書名	編著者名	発行所	発行年月	頁数	備考
新しい大学像をもとめて	内田忠夫・衛藤藩吉	日本評論社	昭44.6	490	
嵐の中に育つわれら	日本民主青年同盟東	日本青年出版社	昭44.6	380	
～東大闘争の記録～	大全学委員会	汐文社	昭44.7	330	
安保体制と大学	横田茂・前田達男	筑摩書房	昭44.9	393	(現代革命の思想8)
学生運動	武藤一羊編	福村出版	昭43.7	288	
学生運動～大学の改革か社会	鈴木博雄	日本青年出版社	昭44.8	341	
の改革か～	川上徹編・著	成文堂	昭44.9	300	(大学改革シリーズ1)
学生運動～60年から70年へ～	鈴木安蔵・星野安三	学事出版	昭44.5	323	
学問の自由と教育権	郎共編	東京大学出版会	昭44.8	329	(大学問題シリーズ3)
教務事務職員のための大学運	大学法令研究会編	宇野書店	昭44.7	405	
営の法律問題と基礎知識	E・ウォルターズ編	三一書房	昭44.12		I～III紹介済み
これからの大学院	木田宏監訳	日本放送出版協会	昭44.8	224	
されど我ら斗う	文理事報新聞会	亜紀書房	昭44.7	307	
～日大十万学友の証言～	三一書房編集部編	東京大学出版会	昭44.8	593	(大学問題シリーズ4)
資料戦後学生運動IV	NHK海外取材班	編者	昭44.4	218	
世界の大学	NHK海外取材班	成文堂	昭44.11	358	(大学改革シリーズ2)
世界の大学改革～改良派と革	大学改革研究会編	有信堂	昭44.6	295	
命派との闘争～	IDE大学教育研究	合同出版	昭44.9	204	
世界の大学問題 I	会編	労働旬報社	昭44.7	844	
続・当面する大学問題	日本共産党中央委員	日本評論社	昭44.11	131	
大学改革と学生参加～諸大学	会出版局編	中央大学出版部	昭44.11	220	
の実例・資料と解説～	有倉遼吉編	中央公論社	昭44.9	238	
大学革新の原点～学生自治と	徳永清	福村出版	昭44.9	270	
学生参加～	安藤紀典	桂	昭43.6	268	
大学革命の原理	野村平爾他2名共編	明治図書出版	昭44.6	254	(大学の自治1)
大学政策・大学問題～その資	料と解説～	ウオラースティーン	昭44.7	265	
大学闘争の戦略と戦術	公文俊平訳	筑摩書房	昭44.7	265	
大学の明日を考える～アメリ	中田正夫・森松健介	ミナミ企画室	昭44.9	633	
カからの提言～	共訳	東京大学出版会	昭44.11	338	(大学問題シリーズ1)
大学の可能性～実験大学公社	案～	読売新聞社	昭44.6	293	
大学の機能	永井道雄	東京大学出版会	昭44.8	450	(東大問題資料2)
大学の使命	田浦武雄	田園書房	昭44.5	380	
大学の理念と自治	オルテガ 井上正訳	日本評論社	昭44.7-9		
大学の頽廃の淵にて～東大闘	福島要一編著	合同出版	昭44.10	197	
争における一教師の歩み～	折原浩	三修社	昭44.5	229	
大学問題	東京大学新聞社編集	南窓社	昭44.9	218	
～その理解のために～	部編	摩筑書房	昭44.9	261	
大衆のための大学	R・J・マッグラス	編者	昭44.6	137, 204	
対決のなかの学問	編 清水義弘監訳	亜紀書房	昭44.11	330	(ドキュメント東大闘争2)
東京大学弘報委員会「資料」	井上正治	紀伊国屋書店	昭44.9	202	
1968.10→1969.3					
討論 70年をどうする～反日	清水多吉等参加				
共系革命諸派の思想と戦略					
日本の大学革命 全6巻					
反大学70年戦線	藤本進治他				
反乱～学生は抗議する～	カイ・ヘルマン 末				
開かれた大学のために	吉寛訳				
変革の思想を問う	高坂正顕				
幻の法案～大学管理法闘争史	高橋和己他2名編				
・現代からの発言・年表・	京都大学新聞縮刷版				
資料・京大新聞縮刷版	発行委員会編				
身分世界への挽歌～林学闘争	東大農学部林学科集				
の記録～	会編				
問題としての大学	河野健二編				



理学部・教室図書室 宇宙物理学図書室

北側に面した暗いわずか90m²の開架式図書室ではあるが、その内容は比較的充実したものである、と自負している。事実、5,400冊、購入雑誌数約130種、その他ゼロックスを備えて利用者の便宜をはかっている。

わずか二講座で年間250万円という大きな予算で運営しているため、研究面へのしわよせは大きい。この分野の研究機関が日本で極めて少なく、単に京大の文献センターとしてのみならず、日本のセンターとしても重要な存在であり、関係書は細大もらさず購入しなければならないというためである。宇宙時代に入り、急速に関係出版点数が増え、昨年より一部の物理関係雑誌の購入を中止せざるを得なくなったのは残念である。星表や星図、それに美しい写真星図などが沢山そろっている。

これまで講座ごとに分れていた図書室も、一昨年研究者の運動により合体され、併せて図書委員会が発足し、購入、自主分類などを行なっているが、未だ十分その自主性を発揮しているとはいえない。貸出規則はあるが、利用者が小人数のためもあり、あまり厳しくしていない。花山天文台図書室との密接な連絡をつけ、より立派な図書室にして行くことが、今後の課題であろう。

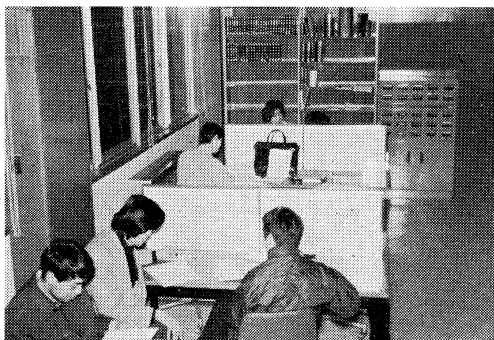
生物物理学図書室

生物物理学教室の図書室は教室の5階にある。発足は2年前の昭和43年である。

本教室はその学問的性格上、物理学教室・化学教室・動物学教室・植物学教室との関連が深いので、雑誌の購入にあたっては、これら関係教室との調整の上当教室関係の分野を充たそうとしている。なお、学部学生の方々のためには生物物理関係の入門的な書物を将来完備しようと努力している。

年間予算は約130万円、購入雑誌数は、洋書18種、和書9種、蔵書数は約500冊である。

職員は1名で、図書室の運営に関することは図書委員会で審議され実行されている。図書利用に関しては、理学部教職員、研究員、学生を問わず閲覧、貸出しの便をうけることのできるのが特徴である。書庫は開架式で自由に図書を検索することができる。図書カードの作成はすべて中央図書館に依頼し、分類は当教室独自の方式をとっている。複写その他の設備は現在備えていない。



生物物理学図書室

あとがき 万国博覧会も開幕し、春の足音も高まろうとしています。

さて、京都大学の図書館問題を検討するために『商議会専門委員会』につづいて、この2月半ばには、全学の図書館職員を糾合しての『大学図書館問題改革懇談会』がスタートしました。直接業務にたずさわっているものとしての真剣な検討が期待されます。

この『懇談会』の審議内容も逐次紙面に報じていくつもりですが、どうか互いに意思の疏通をよくはかり、両者あいまって改革の実を着実にあげようとのぞみたいと思います。

京都大学附属図書館報「静脩」Vol. 6, No. 6 (通号32号) 1970年3月15日発行・編集発行人：岩猿敏生 発行所：京都大学附属図書館・京都市左京区吉田本町・電代表771—8111 (内線) 2220～2238